

大麦管理特報

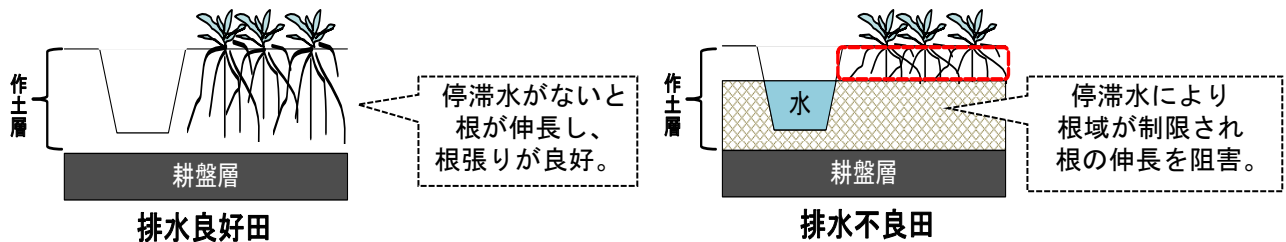
令和 7年 4月 15日

魚津市
魚津市農業技術者協議会

平年並の気温で推移した場合、平坦地の出穂期は4月19日頃から始まるとみられます。開花が始まると赤かび病のリスクが高まるため、確実に適期防除し、品質を確保しましょう。

1 排水対策の徹底

降雨や隣接ほ場からの漏水などの水がほ場内に停滞しないよう排水溝を手直しするとともに、水吐尻の連結と排水口の掘り下げにより、湿害の発生を防止しましょう。



2 赤かび病の防除

1回目は穂揃期、2回目はその7日後に、2回の防除を必ず行いましょう。

時期 散布方法	1 回 目	2 回 目
管理機	トップジンM水和剤 1000倍 150 ㍓/10a	ワークアップフロアブル 2000倍 150 ㍓/10a
ラジヘリ ドローン	トップジンMゾル 8倍 0.8 ㍓/10a	ワークアップフロアブル 16倍 0.8 ㍓/10a

注) 他の作物に農薬が飛散しないよう注意して散布しましょう。

◆防除時期の目安

1回目（穂揃期）：4月22日～4月29日頃
（早いエリア） （遅いエリア）

注) 経営体内で生育にバラつきがある場合は、生育に応じて実施願います。

3 雑草種子の混入防止

「カラスノエンドウ」や「ハマダイコン」などの種子が大麦に混入すると、選別が困難です。ほ場内で見かけたら速やかに抜き取るとともに、畦畔周辺の草刈りや除草剤の散布を行い、ほ場内への侵入を防ぎましょう。

ハマダイコン

